

第2回千葉市ふれあい観察会

夏休みわくわく生き物教室～夏の虫を探そう～

花島伸美（千葉市）

日 時：2013年7月28日（日）9:30～12:00 天 候：晴れ

参加者：27名（大人12名、子ども15名）

指導員：花島伸美、佐野由輝、小林義和、山下美佐子、木下順次、佐藤一枝、
山田益弘、藤田浩二、晝間初枝（9名）、千葉市環境保全課2名

今回の「ふれあい観察会」は、当日雨と雷の予報があったため、市の環境保全課の方にお骨折りいただき、翌日に延期した。そのため、当初予定した参加者79名（大人と子ども合わせて）が、27名と約3分の1に減った。募集人員50名のところ、応募者は120名あり、抽選で79名にしたので、かなり人気のある企画だったが、前述の通り順延となり、班構成を4班から3班に減らして、1班10名前後の小規模な観察会となった。コースは前年度と同じように設定した。

- A. 林縁を中心に、アカトンボ類、バッタ、セミ、カミキリムシ、カブトムシ、チョウ、アマガエルなどの観察。①太陽の広場 ②アスレチック脇 ③もみじ広場
- B. 水辺を中心に、ウシガエル、メダカ、ゲンゴロウ、マツモムシ、クモ、オニヤンマ、オオシオカラトンボ、チョウトンボ、イトトンボ類の観察。
①調整池 ②蛍田 ③中菖蒲田 ④下夕田池

【サンプル】調整池（ウシガエルのオタマジャクシ）、
蛍田（ヤゴ、カワニナ、ゲンゴロウ、ドジョウ）

Aの林からBの水辺（池や田んぼ）の生き物を捕まえて、その特徴やオスメスの違い、どんな行動をしているのか、それらの生き物のつながりについて各班の指導員が興味を持たせながら、案内していった。

参加者は親子連れで、小学校低学年から高学年まで、各自が捕虫網を持ち、どんな虫を捕まえようかとやる気十分の気持ちが伝わってきた。特に低学年の子ども達は、目の前の動く生き物に集中する傾向があり、「トンボ！トンボ！」と言いながら、網を振ったり、捕まえたチョウを指導員に見せに来たり、どこかにいないかと探し回っていた。男の子はトカゲ、カエル、オニヤンマに興味を持っていた。オニヤンマは上空を飛んでいたりと、産卵場所を探しているのか 低空飛行で飛び回っていたが、どの班も捕獲に至らず、次回への期待を残した。

今回は前回より終了時間を30分早め、12時解散としたが、どの班もそれでよかったようだ。ただ、コースが回りきれない班も予測できたので、各班の状況に応じて動いてもらうことにした。全体的に万遍なく回れた班もあったが、子ども達は移動しなくてもその場で十分楽しめたようで、アスレチック脇の林でバッタやトンボ捕りなどを時間をかけて楽しみ、下夕田池には行かなかった班もあった。次回は観察ポイントを絞り、ひとつの場所でゆっくり楽しめる観察会にしたいという意見が多かった。

